

邵林泉名勝圖會

一  
乾



所有者	格價	期同	會存	番部内
			一〇	五二四

山 水 阿 里 七 草 木 枝  
 美 以 海 々 々 々 々 々 々  
 阿 里 七 山 々 々 々 々 々 々  
 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 阿 里 七 山 々 々 々 々 々 々

七  
 二  
 四

かきつらぬ一ふりて  
其のこゝろはなれども  
あつと云く見ぬを  
しるすはさしむるに  
解里龍島はぬぬの

林亭二

記洛林果はぬぬ  
いかに海はぬぬ  
うねぬ実由縁はぬぬ  
いかに書はぬぬ  
都の人と云ふはぬぬ



遠くはあつてもあつても  
林ありきの海に遠く  
の想はあつてもあつても  
彼國會はあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつても

はめりる言葉は

かいつくさる

寛政とあるは

いづれの

藤波二位季忠卿

水竹居主人書

從是與藤二井 治兵衛

凡例

- 一 此書は若板築山庭造傳と基なり系師四方名庭に林泉が發して都林泉名勝圖會と題書を授けり宮殿臺榭山閣水亭鍋舎蓬戸の林泉を頗多し餘は日録と書て巡後一後編し備へ
- 一 諸寺方丈書院の名画名筆又ハ什寶虫干の體相此大畧と書て其寺院の莊嚴系師の美觀之類も亦も餘限あり其具小記を事々細りて餘ハ寺僧小記と詳し書あり
- 一 勝地小のて風流の圖あり強林泉小書に其地風光が彰るなり又典故の繪あり其れを右小准と初謂茶野が件伏水梅溪何合納味高雄紅葉大堰川之船等の名あり
- 一 林泉小古人の詩を寡し故小今時系師小能く名家の詩を乞需て多く圖中小釘と其中小作者自家の詩あり謙信狂言も亦あり小准也

一畫工一筆ふむるに圖毎の印章各姓名あり是を以て画師と辨ふ也  
 一庭造の法則あり側の亭宅と除く画くは林泉の規範と云ふなり  
 料あり法則無き舎屋と圖一風系の専ら又四季物々の花樹  
 有る大畧を樹々の志をせん為不時節ふふに畫くと画くも人  
 梅櫻蓮楓ありの類ん  
 一法則ふる多遠系の收庭中の都々其遠系の圖一遠系不用意の  
 庭のありと省く又圖毎ふ人物の画の小大あり其貌の小大ふり多  
 林泉の廣狭の志ありとあり

一画  
 林泉名勝圖會卷之壹

都林泉名勝圖會卷之壹

目錄

- |       |      |       |
|-------|------|-------|
| 神泉苑   | 七夕蹴鞠 | 相國寺   |
| 鶯宿梅   | 什寶   | 紫野名軒摘 |
| 雲林院御遊 | 紫野   | 雲林院   |
| 大德寺   | 大雄殿  | 演法堂   |
| 土地堂   | 祖師堂  | 經藏    |
| 淨樓    | 浴室   | 敕使門   |
| 明智門   | 寢堂   | 三解脱門  |
| 方丈    | 雲門菴  | 起龍軒   |
| 金剛軒   | 看雲亭  | 明月橋   |
| 官池    | 梅橋   | 古巖松   |
| 瑞雲亭   | 達磨峰  | 什寶虫拂圖 |

塔頭繪揚  
久用菴  
養徳院  
興臨院  
總見院  
天瑞寺  
高桐院  
金龍院  
芳春院  
清泉寺  
梅岩菴  
常樂庵  
紫式部碑

徳禪寺  
松源院  
竜源院  
瑞峰院  
黄梅院  
正受院  
玉林院  
昌林院  
寮舎  
瑞源院  
高林菴  
孤蓬庵  
龍翔寺

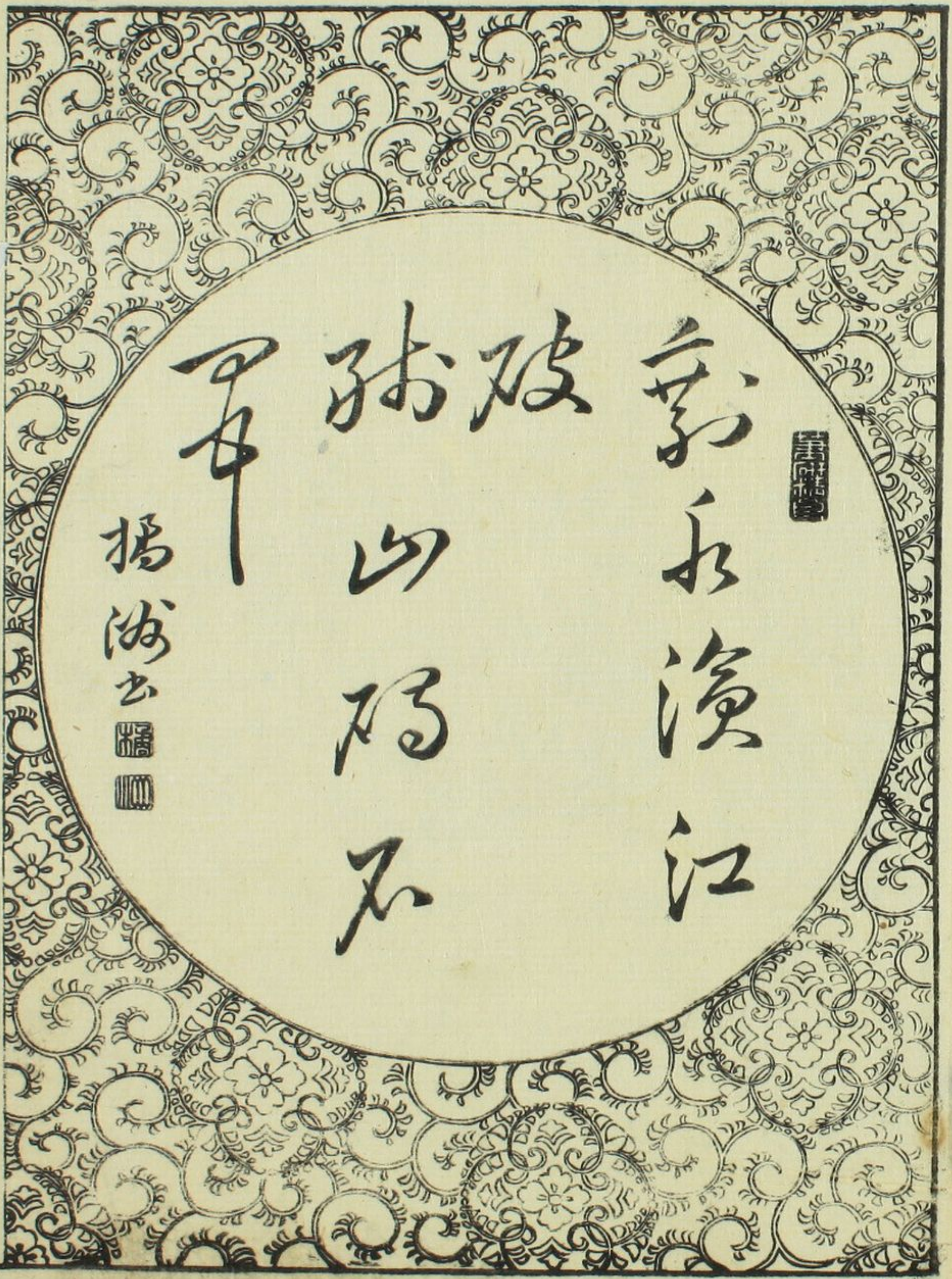
如意菴  
眞珠菴  
久僊院  
聚光院  
三玄院  
久慈院  
久光院  
龍光院  
龍泉菴  
寸松菴  
見性庵  
碧玉庵  
引接寺  
碧玉松

乾法寺  
赤松圓心塔  
蛭子社  
榮西禪師揚鐘圖  
靈洞院  
四條河原納涼  
眞如院  
眞如水  
七夕菴花

什寶  
池坊  
建仁寺  
南山堂  
鎮守  
當山十景  
十日經子清  
正傳院  
祇園一宮  
戲場顔相見  
瓜實燈燭  
西本願寺  
盆燈燭

巴庭  
七夕立花  
佛殿  
方丈  
無盡燈  
扁額  
畫墨曬掛虫干圖  
織田有樂茶亭  
祇園橋由縁  
本園寺  
烏帽子石  
林泉  
東本願寺

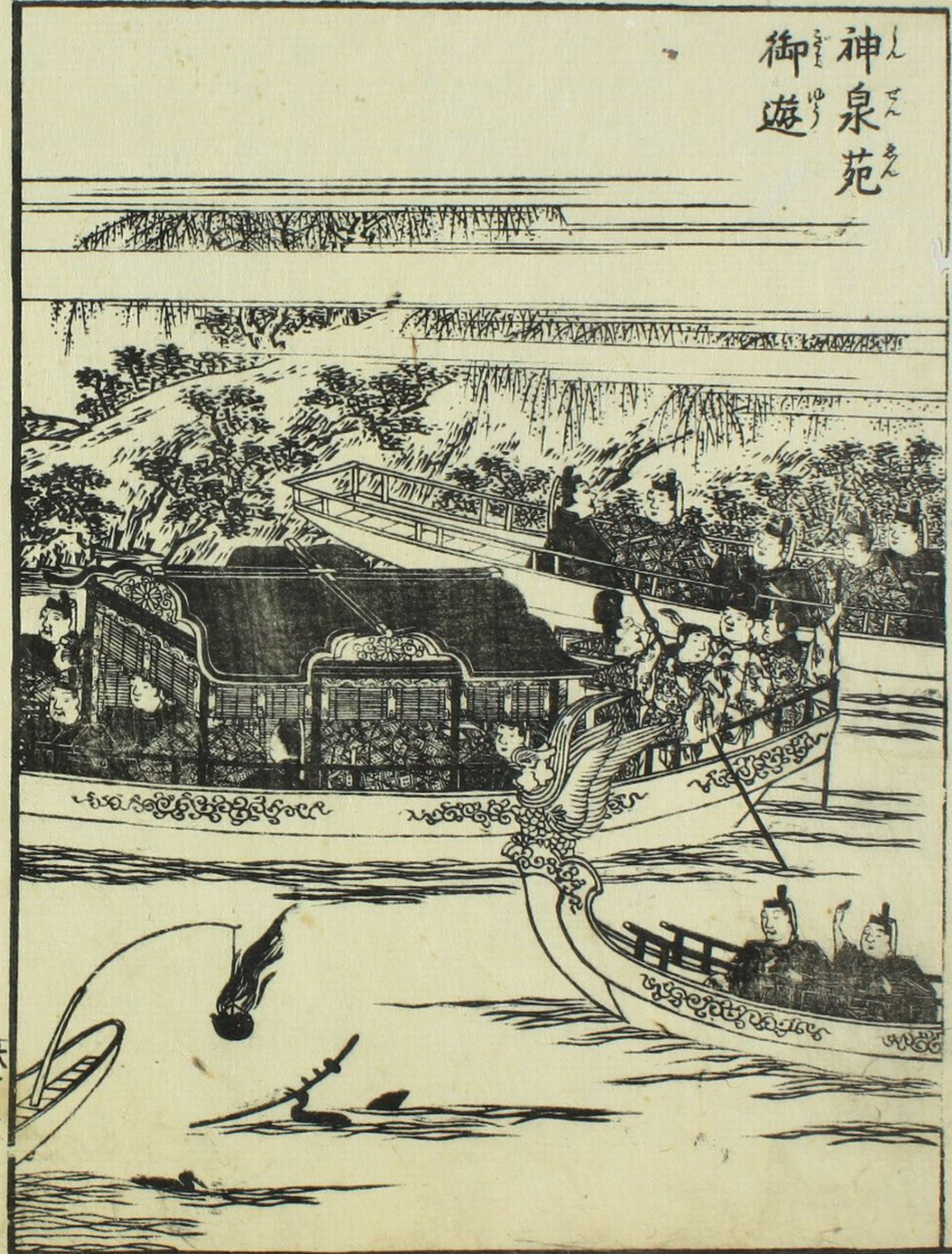




都林泉名勝圖會卷之一目錄

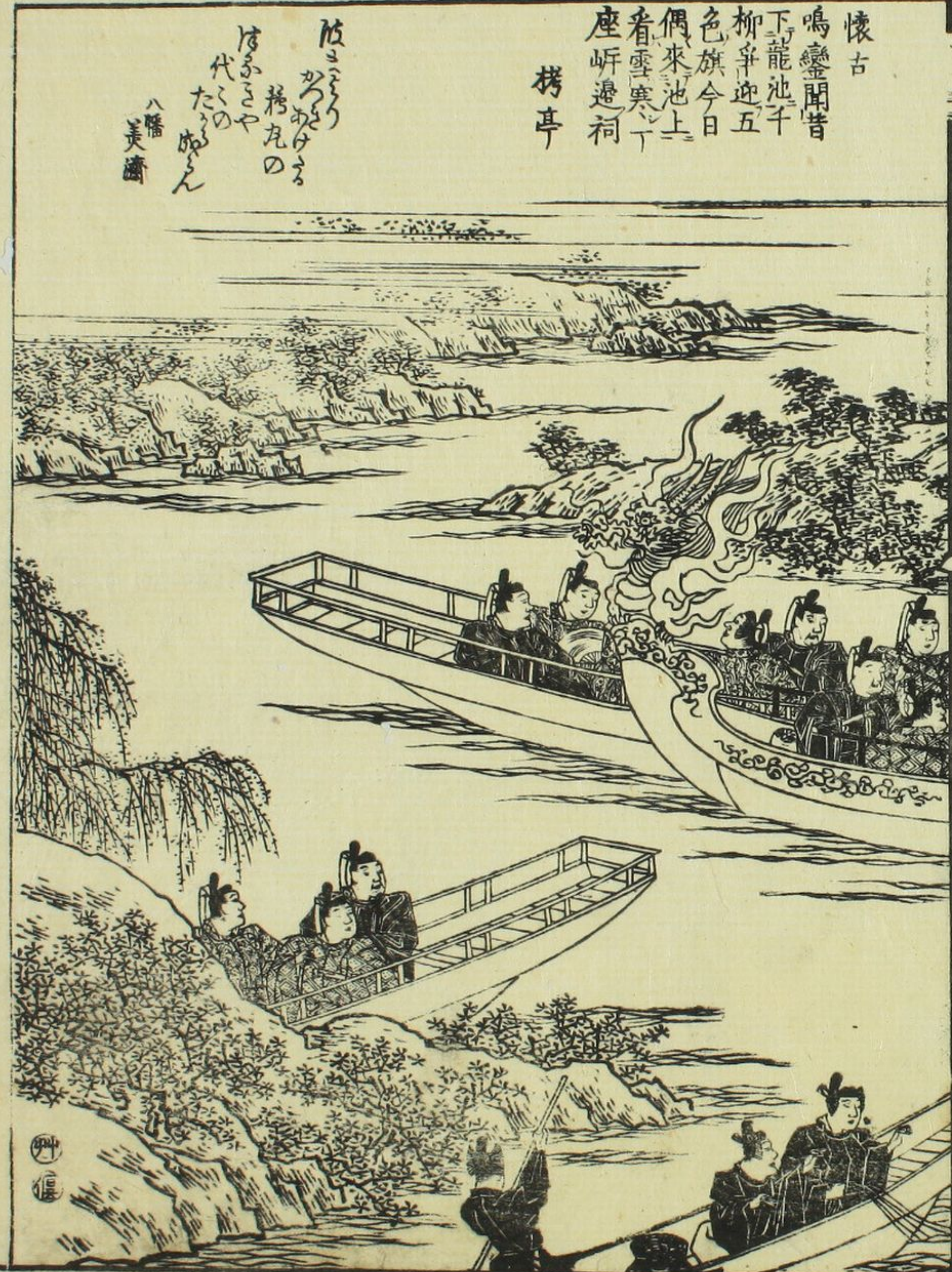
- |         |         |       |
|---------|---------|-------|
| 法成園     | 東鳴臚館趾   | 六條内裏  |
| 釣教院     | 桂宮      | 融之臣旧館 |
| 遍照心院    | 方丈林泉    | 遠寶    |
| 圖中圖     | 六孫王系    | 實法院蓮池 |
| 東林院     | 南谷香齋幻華庵 | 東寺    |
| 宝輪院     | 茶亭      | 所教供指  |
| 山吹岡平氏涌泉 | 烏石扁額    |       |

神泉苑  
御遊



懷古  
鳴鑾聞昔  
下龍池千  
柳爭迎五  
色旗今日  
偶來池上  
看雲寒下  
座岍邊祠  
携亭

波ささり  
あつた  
務丸の  
はふさや  
代々の  
たの  
八幡  
美濃



傳言納言の枕井竹紙云九月をうり萩一ふらりわくくくるぬれけき  
やみくわさ月れたやうはくくせんさの菊は落るるうぬれく  
くるといこちうきいあらんすきふこのうふくひくは乃すれ  
こむれのうくくあふふ系もくふぬれくくく志落きまはぬ  
くくやうあふきいもあふぬれくく一日ふけぬれ萩さとの  
ひくありげらるるふ落のおりるふ枝のうちうあててくふぬれく  
かみさほあぐりうくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
本は松さくくくく五葉もくくくくくくくくくくくくくくく  
あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
紫宸殿せし移し階下ふ古梅あれを其傳は植並れくく  
の家は橋と阪上隴守 詔を奉く移し植るまはくく南殿橋た道橋

やもくく御階橋と橋をま秦保國の後園は名もく年代うて後天徳  
の頃右近將監 勅を奉る植並れくくく右近橋と野かあも  
かれまはく都林泉の基くくも可ぬくんや  
ま本 あれ屋やまくくくのまくくくく神とけぬる子世の初巻 後巻  
神泉苑へ上古封境廣くく二條の南之條の北之宮の西壬生の東之地向く  
天子遊苑の新乾臨閣と正殿くは巨勢金園石と争むくく内裏くく  
造宮ありし時周文王の畫圖は准くく方八町は傳れく泉苑は池あり  
若女龍王ありりくくく神泉もも号け又其めくく洛中み課せて柳橋と  
多く植れり弘仁二年は月日 帝あふりきありく観苑の神遊あり  
文人あく詩を賦し禄と賜く事差あり 類聚くくくくくくく  
十月鳳凰乾隆閣のむく 鸚尾の上集るく代 又神泉苑ふ於く神靈會と  
祝ひせしは是日苑の門と開くく都の貴賤と出入り縦観くく事  
聽く又菊宴もく女樂は南の院殿ふ奏し益とめくくく一舟に系ト

後ッく閑居の帷小籠く楽と奏に内裏相撲會少納言人舎人と共に  
東の籠れ上の橋頭又貞觀十八年六月多の疫神と神泉苑小送る  
是祇園會の藍觴初春の友長の真言院よりありあけに出く焼  
上るなりけし時法成就と唯と弘法大阡の若女龍王を祈りて雨の法を  
りひ天下早魅の慈を柱く敷感と紫の小世小所も和前と祿とく西瓜  
際く路の宣有と奉く五位の爵と賜へ白河院の遊の時務とつくせ  
く敷後のあるふ務池中ふ入く金覆輪の大刀と吟へく上るをかくち銘と  
務丸とあめく其外代の帝りをあく事救回之中頃明徳應仁  
の兵孫不罹く今の僅の林泉とある志かいあれや之内裏の遺跡を載の  
賜とぞ思つれるる

本朝文粹

冬、日於神泉苑同賦葉下風枝疎

源順

神泉苑者禁苑之其一也。紅林地廣吞楚  
夢於胷中綠池水高縮吳江於眼下。戸部  
省侍郎以下偷取暇豫干其間蓋亦禁渙  
釣不禁吟詠也。觀夫葉隨風下枝逐日疎

梧楸影下。一聲之雨。空麗鷓鴣背。上數片  
之紅纒。殘蕭然。然。然。誠足以感耳目  
者也。干時短晷。已傾長庚。將出以文會友  
暫雖携風月之遊。退食自公。飽難玩林池  
之妙。恨來暮而去。早請乘興以遺詞云爾

經國集

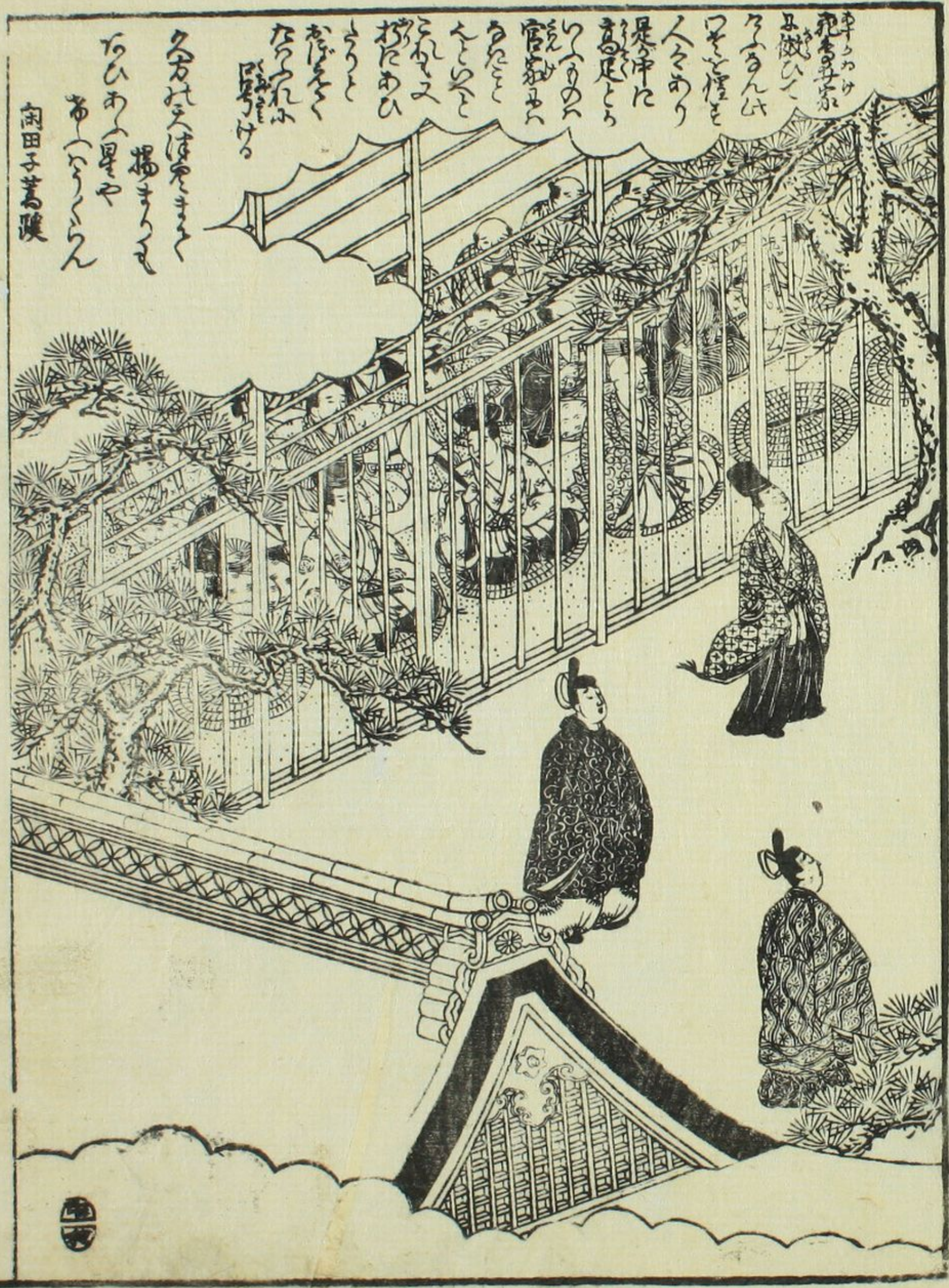
和海和上秋日觀神泉苑作

滋貞主

聞梨下自南山幽勅許念看上苑秋御路  
蕭疎楊柳影遵行直到白沙洲迴瞻肅殺  
無紛濁眼沸清泉一細流小嶺登攀頻見  
驚暗林拂入欲驚鳩三明濕照龍池閣二  
道重迎秋薰樓法侶相隨喜樹下不殊昔  
與大比丘

年中行事

ちをゆる神の泉れそのくをたなとゆめりしあ風なる  
さたちやうと心月小あ多るさちやうと真言院より神泉苑へ  
出く焼あがらあり法成院の池よあそくをさへ神泉苑  
の池とらん也



申さしか  
飛香も  
是れは  
ふれい  
さるん  
口を  
人々  
是れ  
高足  
はりの  
官  
あか  
ふれい  
なつ  
なつ  
夕方  
ちひ  
あひ  
肉田子



七夕

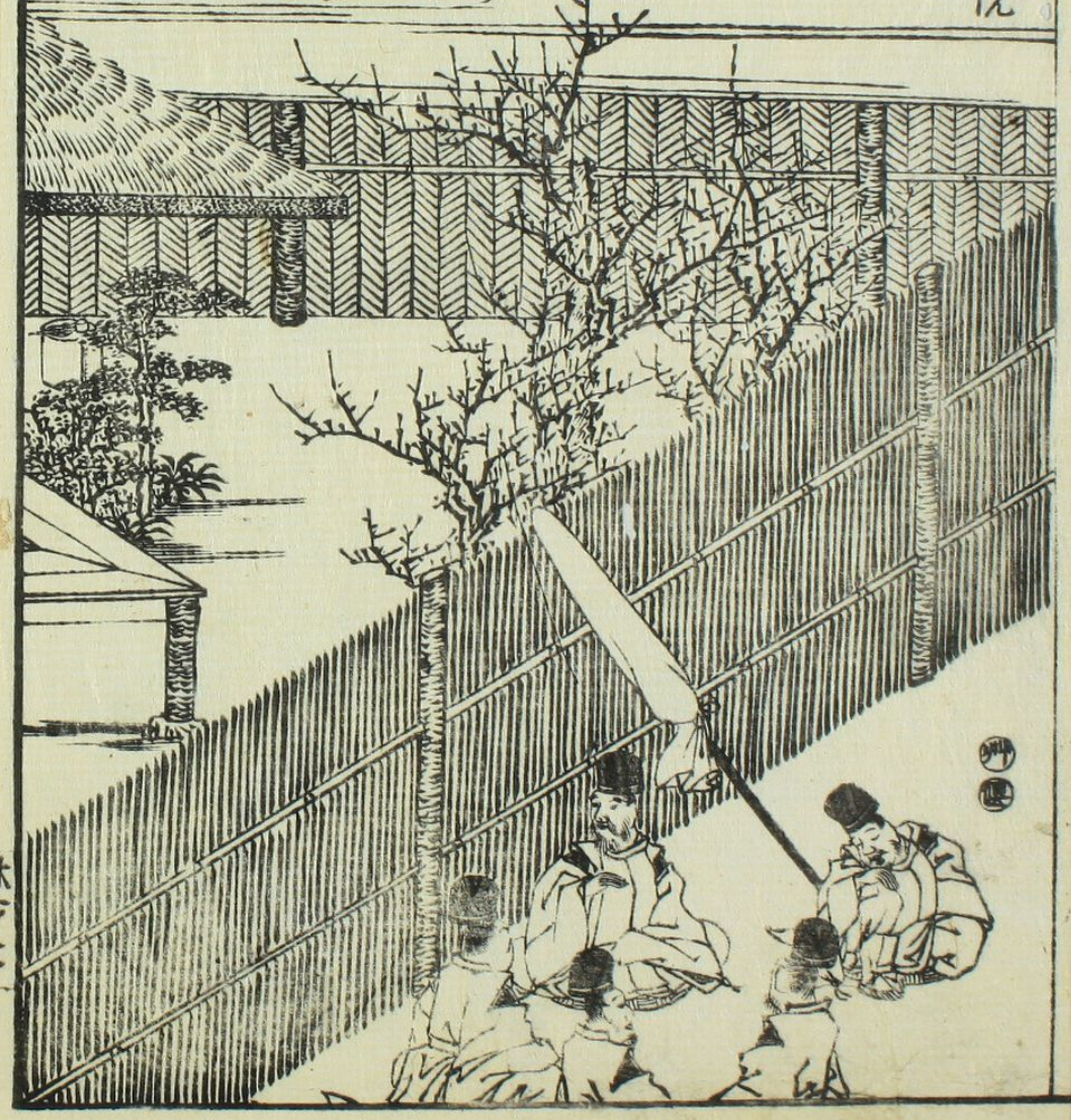
蹴鞠

相國寺林光院  
鶯宿梅

鶯宿梅

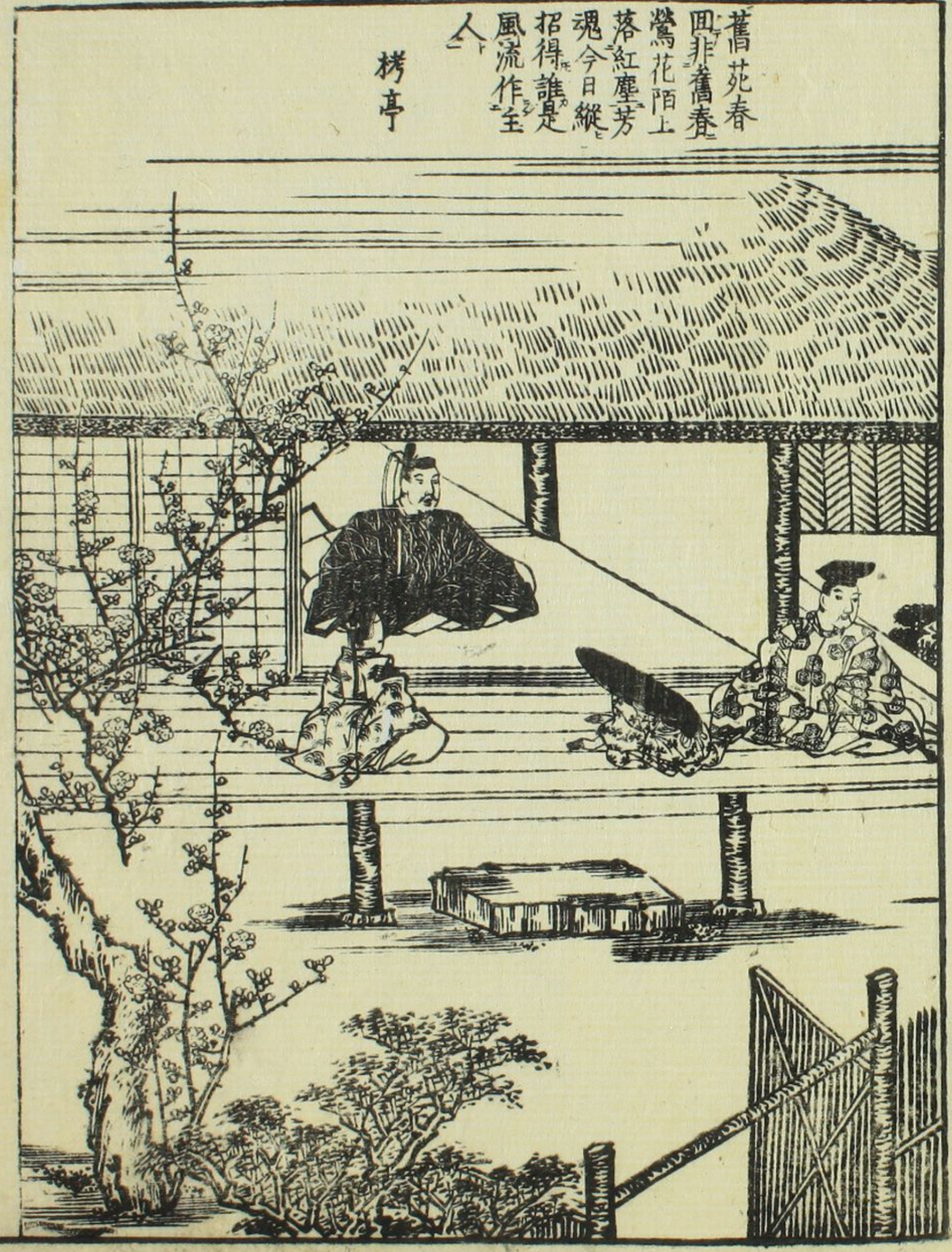
處，春風花老，  
年何處，處處此  
如憶昔年，永祿  
天仗，手載，其  
岩，宿梅

相國寺  
維明



舊苑春  
回非舊春  
鶯花陌上  
落紅塵芳  
魂今日縱  
招得誰是  
風流作主  
人

栲亭



蹴鞠

蹴鞠の序遊々 用明天皇の序字序士より後々々々上宮太子の序徒然と  
尉奉らんを御志を承て 厥后文武天皇大實年中内裏中  
専りらる鞠の神を近江志賀郡松本村大明神神跡に依田彦令  
の幸竟とある初に洛陽桂宮に在りて又 法皇羽上皇も此道に  
賞と終る今に七夕の日恒例として飛鳥井難波の末家も於て  
蹴鞠ありは貝椀の序鞠として上家番入又地下の門人も未だ  
書院の椽側より種々の色あり鞠と飾らる鞠を以て四本の松葉を  
しりし許色のあ干紫裾濃の袴を着て一両々々の高底小身とせり  
沓の若斜陽の彩小響く都の壯觀あり

鞠の序小椀柳を後極くまへ錦小まやゆらむ 乃家

相國寺

相國寺へ上古出雲寺とて傳教大師の草創して天台の佛刹へ永徳  
年中足利義満公禪院として夢窓國師と結祖して妙葩源一師に  
二世に封城小十系あり總門の若瓜般若林といふ排門と妙莊嚴城

と号け山門公圓通といふ寶雄寶殿といふ佛殿と若の川公龍潭水と号

し蓮池と功德池といひ天界橋公に於て輪藏と祝隆堂といひ洪音樓

と鐸樓といひ鐘の南都元興寺の鐘の中須鬼神歩くといふ持中

の故少人といひ持中といふ相國義満公の命よりいふ寺も揚記

護國廟八幡宮公鎮座といふ塔頭林光院といふ若石梅あり是に

むくある紀貫之の家ありて此法涼殿の若石梅らんとて求ひて小

貴之の娘かといふかよみかねを其後かといふ若光院といふ若石梅の墓

あり松崎村に法然水ありて原賀の神宮寺ありて今の百万遍の旧地に

當山開山堂の若石梅を鴨川の支流といふ法然寺といふ若石梅の

依りてといふ近奉天明の四福小権といふ若石梅の故小園といふ若石梅の

繩目文殊若簡の若石梅の横に世に齊吟文殊といふ啼鶴の二幅射を

土庫の若石梅をいふ法然寺といふ若石梅の若石梅の若石梅の若石梅の

の黒蹟松風の鏡鏡小狐の鏡鏡大皇帝の書院信忠等の十六羅漢

絶海和尚の十牛十頌古法眼元信の文殊其外教百岳ありて小畧次

紫野  
 思樂紫野于米  
 其甘是采是獲  
 薄薦吾親思  
 樂紫野于米  
 其第日之  
 永笑以遊  
 以遨以遊  
 以遨于紫  
 之野變兮  
 諸姬既都  
 且雅

佐野  
 意

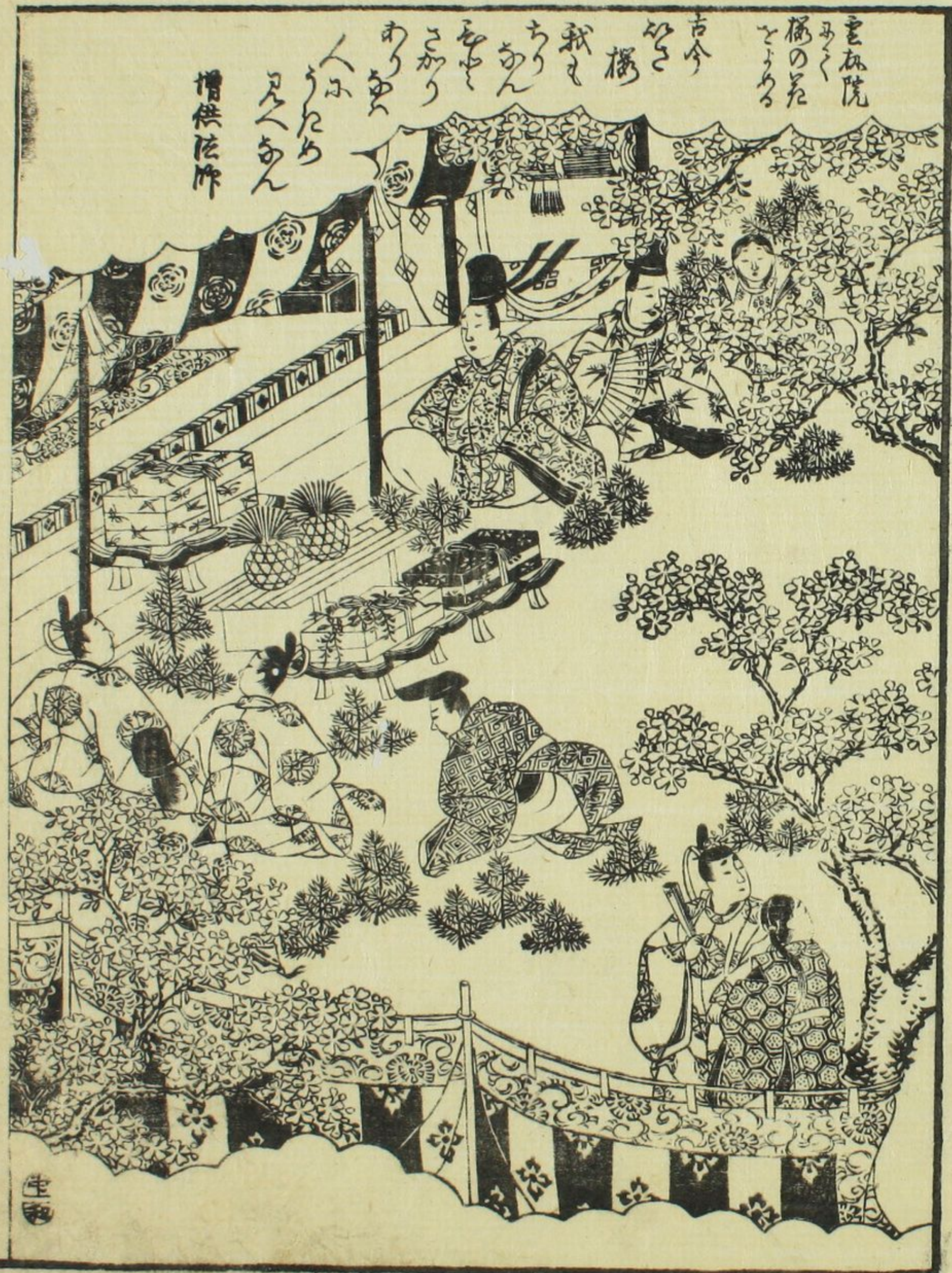


紫野  
 若菜はみ

春の  
 中  
 の  
 頃  
 には  
 紫  
 の  
 花  
 が  
 咲  
 き  
 出  
 来  
 ます  
 佐野







紫雲 大宮の 大宮の... 遊衛一後

白妙の... 祝せ初ふむ

福を... 藤原

云林院 紫雲 原 淳和帝の離宮之六長九年紫雲小川

文人小令... 御製

時々... 仁明帝

臣賜... 殿宅

帝宅退の後親王落髮... 勅願寺

移入帝の追福... 親王の居室

則常... 則常親王

村上帝の勅願... 實塔

天皇... 天皇

元年... 謙徳公伊尹

勅... 圓融寺

宸居... 崩ト

紫... 紫

今... 云林院

以... 字の地

帝... 元亨四年

及... 比大徳寺

刹... 客殿彩画

小... 威び

六... 原小再興

名... 本

お... 系

家... 系

家... 系

家... 系

本朝文粹 卷之八 雲林院 不勝感歎 聊叙所觀

雲林院者昔之離宮。今為佛地。聖主玄覽之次。不忍過門。成一功德也。侍臣五六輩。流而隨喜。院主一兩僧。掃苔齋以恭敬。供奉無物。唯花色與鳥聲。拜謝有誠。唯至心與誓首而已。予亦掌聞于故老曰。上陽子。日野遊厭老。其事如何。其義如何。倚松樹。以摩腰。習風霜之難犯也。和菜羹而啜。口期氣味之克調也。况年之閏月。一歲餘分。之春。月之六日。百官休暇之景。今日之事。今日之為。豈非為無事乎。予雖愚拙。久習家風。迴輿有時。走筆無地。聊舉一端。文不加點。云爾。謹序。

本朝文粹 冬日遊雲林院西洞玩紅葉

江以言

雲林院西洞者。天下之名區也。近世事踐。其兆域之者。每至花春。葉秋。莫非雲龍。虎於。是左親衛。負外次將。請暇。霜杖。象興。

風情來遊。此間蓋有以矣。次將槐露。以承家。蓬砂以立。椽文。絲煌々。漢家之雌黃。失色。筆力嶽々。唐室之雄伯。差肩。于時屬。玄英。之已。半。玩紅葉。於其中。自秋及冬。送數日。而。深。出。衰。梧。老。柳。無。一。枝。之。遺。留。至。夫。飄。飄。無。數。高。下。不。定。落。敷。池。中。風。疊。赤。光。赤。色。之。浪。飛。散。佛。上。霜。添。曼。陀。曼。珠。之。花。者。也。既。而。當。于。紅。螺。之。聲。忽。暮。玄。鶴。之。駕。將。歸。禮。部。郎。中。以。言。拜。溫。官。而。含。歡。對。寒。林。而。遺。恨。云。爾。

大德寺 紫雲山と辨次

龍寶記云 紺園平安城の乾方紫雲山あり。西鷹嶺に接す。東比叡を俯して。船園の南の界を。賀茂川が小接。此地勢夷曠。松檜蔚然。實は禪寂無塵の淨域なり。大德園師の廟。新之宗。嶺。既。小。南。浦。和。尚。因。師。小。法。と。嗣。躰。と。洛。東。老。居。さ。し。止。め。く。后。あ。小。移。る。檜。城。赤。松。圓。心。則。村。同。ト。剛。右。一。院。と。創。く。大。德。園。師。と。信。と。冬。向。の。緇。索。目。小。多。く。月。小。坊。毎。

時み叡山の意法下 又院心子 其黨教人と偈く達磨宗と破せんや  
 獲来ると同雅性交教條も違ふ竟尔宗峰の機鋒も違ふ事協らば  
 窟報し誓類しと貴子の礼と執就中を惠まはば禪小傾る事  
 厚し直み方丈公堂く若罪は謝は又宗印とし者師は帰崇しと  
 諸堂を建てる禪刹とふに其頃 花園法皇勅しと入内公許し輒  
 禪要とのいし奏對敷直に愜ひ忽龍床小堂と法と談し興禪  
 大燈因師と賜し 後醍醐帝礼敬特深し朝廷貴一の祈禱所  
 了し屢禁脔に法座を設け因師を待し所を説法あり 又皇自  
 貴子と称し投機の偈及び著語等の宸筆を成給し元亨二年  
 天皇宸翰と深し奉朝無双の禪苑と称し  
 岡山大燈因師名公宗峰字公如起し父播州浦上掃部助入道覺性也  
 赤松赤心の次男季房の女に浦上掃部公の女に配りて筑前府多宗福寺の五世と又但州  
 覺性の室あり是因師の母あり 筑前府多宗福寺の五世と又但州  
 祐徳寺と創し建武四年丁臘月廿二日遷化 安永門菴塔と

○大雄殿 件名とし本寺を叙進神額神禱張部之奉 初メ山二世徹翁は尚  
 の源法隆屋敷 再興し同年六月落成又其後寛文六年那岐守  
 弊陋ありしを一新し今の堂とす

○演法堂 初赤松創設亨徳年中田祿の後江月和尚の禱依し  
 繪業正勝彦建立し之井画龍持世探幽等

○土地堂 梵天帝釈及び大小神祇  
 伽藍社多ふ安し

○祖師堂 初祖菩提達磨百丈陳融  
 岡山大燈因師像を安し

○経藏 源解那波宣且おしは建てる  
 藏経を貯る櫃中ふ藏む

○鐘樓 慶長十一年秋益田を著頭元祥一親に  
 銘を建長言加書し

○浴室 額張部之奉 再興元和八年  
 系師屋屋紹由おしは建てる

○敕使門 舊九重の陽明門也 正門 寛永十七年 明正帝おしは賜し  
 勅使來駕の所とす

○明智門 方丈の南に門を明智光秀建立傳云光秀は正平中其君  
 命を討つに納く眞秘伝の故也 自ラ命の保ざりぬ事を知りて白金千兩を  
 以て門を建てる其名を賜ふ

○寢堂 再興寛永七年石洲益田を著頭藤元祥再興は法名紹圓  
 初ノの建立の施主  
 詳ありし後



大徳寺  
方丈  
天祐和尚作



大徳寺



之解脫門俗名山門といふ 額金毛閣張取之澤閣上杉画  
 本尊釋迦阿難迦葉十六羅漢之安次秋迦三子一奮龍翔寺大雄  
 殿の安坐仰人奇字破壞及人々由山に板及十六羅漢千  
 利休の家附之今の之山に連弁作宗長の建所之其後古漢  
 和尚檀越千利休と翻く閣と自上山設く  
 金毛閣梁棟録

帝德高輝視壽城於萬歲 檀越泉南利休居修造  
 祖風益盛開法門於無窮 住洛北春屋重園督

春屋慶賀偈云

千門万户一時開 月斧雲斧功大哉  
 踞地金毛高閣上 舉揚臨濟話頭來

連弁宗長ハ宗祇の才子也 駿州修田の人 宗屋軒宗長と  
 号し老後今川義元の招請より同州九子驛泉谷に幽居し  
 享祿八年三月六日没 歿八十五才 其後東海道名所圖書に之  
 有り宗長初志山直珠菴と建く其後諸堂と經營し之を悉く  
 備はりいま山門成り宗長云は今五十貫と施す 費用乃  
 萬一と云ふ 遂に秘藏の珍寶定家卿真影の源氏  
 功徳と驚く 殿  
 方丈 初、主徳法下建る應仁を火の後寂の宗縁及び嘉源等  
 方丈厨と建る寛永十三年宗師後為隆益勝方丈乃

秋廬ありとりの新方丈に遊る 於是古方丈に極く  
 庫院と云ふ方丈、額張部之系  
 客殿襖 墨繪山水 狩世探幽筆

雲門菴 同山大龍園師の塔新之方丈の内ふあり 額曰 靈光 初ノの  
 後土御門帝の宸翰之 花園法皇 所發塔あり 法皇詔に云く  
 所發と小塔の中五納、墨光塔に安次

紀龍軒 方丈の靴。金剛軒 傍堂の。看老亭 方丈の  
 巽あり

明月橋 併及と法堂との  
 官池 明月橋の東ふあり 傳云 後醍醐帝此山に遊遙引移し時  
 不可因茲命と云ふ 指點し 園師に宣ふ地正五一池と開く  
 以ての官池の北五松の丈横あり

梅橋 古梅あり 官池に横し 梅松  
 古巖松 喬松已小 枯きく 其前と後 今方丈南庭の松  
 最秀可之 故に名なる 何と云ふ

瑞雲亭 傍堂の南金剛形の  
 達磨峰 未詳何峰 或云 指比叡山 是風来みく 當境に  
 十名ハ大徳寺の

十境ハ大徳寺の

大德寺什寶虫干曬掛圖

運庵虛堂南浦三祖自贊畫像

大德國師像一自贊後醍醐帝御贊

大德國師投機頌

大德國師垂問後醍醐帝下語兩筆

後醍醐帝投機頌

大德國師傳紫衣遺屬語

大德國師遺偈

大德國師與徹翁印證德禪什物

同 與徹翁辨

徹翁和尚與言外辨

同 遺誠偈

三幅

二幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

一幅

徹翁大祖正眼禪師辨

徹翁大應國師辨

大德國師親寫傳燈錄

徹翁和尚親寫絲函錄

同 寫舍利記

後醍醐帝宸筆朗詠

大德國師菩提講敷地證文在法院志中

同 單書簡

中正藏主單書簡

古德和尚單書簡

大德寺南禪等位本師劬例菊亭右大臣

虛堂墨跡旁附之記證

日

日

合為十五冊

德禪什物

一幅

一幅

批卷

一卷

一卷

一卷

一幅

二幅

虚堂達磨忌拈香之墨跡 桑山果法院 寄附

虚堂書簡

同係 行西柳等 自贊

併服係 後水尾院宸筆和歌

大燈係 一乘院真教親王筆

觀音係 月壺筆

觀之龍虎猿鶴 牧溪筆 陸信忠筆

十王係 北殿司筆

十六羅漢係 總見院什物

五百羅漢係 總見院什物

右ハ鎌倉末福寺の什物之其後相州小田原北条のより入瑞溪寺小安以  
少条七郎の後秀吉之取上之より一乘院之什物之寺室之成丈併殿之古後  
和也所創之故小總見院什物と云今方丈小安と已上龍室誌大意

幅

幅

幅

幅

二幅

幅

幅

十幅

十一幅

百幅

徹翁係

大塚園係 止眼海係 信外馬

止口海係 信外馬

鄭心為歌

論石 論石

同道誠偈

徹翁辨

同遺偈

印可狀

虚堂墨法 虚堂墨法

虚堂墨法

勅使問

虚堂墨法



五山繪有

元弘三年宸翰

高麗加塔繪有  
新羅行繪有  
菩提薩埵  
法名新傳加  
開山投機頌  
起光頌  
開山後醍醐年法塔  
後醍醐年投機頌

開山遺偈

雲門庵

吹響狀繪有  
再興繪有  
元弘四年繪有

建武四年宸翰

元弘四年繪有

開山墨王殿

同  
同

開山係自贊

運庵係自贊

大應係自贊

開山係自贊

後醍醐天皇宸翰朗詠  
方丈卓上

虛堂係墨西向贊

禮間

佛眼係自贊

○龍光院名畫墨蹟掛曬之圖

子昂之行墨蹟

鳳凰文  
十探幽

對幅  
冬探幽

葵舜舉

菊趙昌

葵舜舉

猶王翁  
牡丹菊昌  
双雀雪舟  
四臨頑舞

對幅之  
山水同  
山水同  
山水同

對幅三  
山水人物  
山水人物  
同王回

本覺禪師墨蹟

利休文字瓢庵

通圖空記 江月卷

謝古常照禪師筆

宗及号同筆

試春偈 普通國師筆

方  
同  
同

五祖 印月江贊

三祖 砥平石贊

初祖 端泉史贊

觀音 月壺

二祖 心笠贊

四祖 逸推隱贊

六祖 芝靈石贊

大燈假名文

宸翰 大燈字

華中墨蹟

達磨像 大聖國師贊

大燈法語 同筆

四祖五祖 傳庵贊

德山像 實傳贊

無心  
無心  
無心

寒山 顏輝  
拾得 同

仁叔墨蹟  
觀音 清和墨蹟  
海棠 與摩自書

山水 出瀨

默庵 号一山

一山 國師墨蹟

一行書  
南無慈悲方行菩薩

山水 已

猿猴 牧溪  
布袋 顏輝  
猿猴 牧溪

梅 月 同  
觀 名 雪 舟  
松 同

芦雁 墨蹟

明正院 御筆消災咒  
密庵 和尚墨蹟

南浦 和尚墨蹟  
泉州人 伊丹屋宗哲書附  
表具小塔遠州不令也

蘭溪 和尚所書金剛經  
折本

大燈 國師所書濟大川錄

栗柿 牧溪筆  
相阿孫外題有之  
菓子繪一云

誠子 内親王所書俊成卿之紙

妙吉祥院 所書六歌仙

千利休 家瓢庵文

五中 此付しき  
そりらし又ゆみ  
中よりあまき  
二考

瓢庵 文

利休

一卷  
一幅  
一幅  
一部  
二冊  
二幅  
二冊  
一幅  
一幅

准朱香合樹下人形紋久一文

市土茶碗千利休所藏宗及信之

産物九壺茶入箱蓋遠州表之 九つぼ

同文琳茶入箱蓋小翠岩珉和尚書

同鶴頸茶入箱蓋江右和尚書

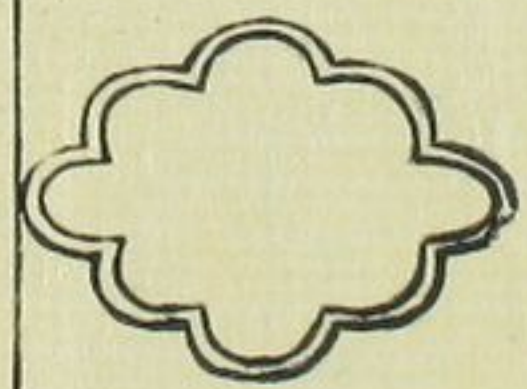
飛茶瓢筆茶入箱蓋小お茶あり

注滴天目小黒ッ房茶、白星内外あり

曜變天目黒ッ瑠璃色、有星

臺小振菱花形青貝菊文

盆九宝流 黒塗 裏形 外ノ縁曲



一箇 一箇 一箇 一箇 一箇 一箇 一箇

内赤盆

凡内外朱塗外の極小牡丹、菊、梅、山茶花

茶抄宗及化 筒小更函化あり

爲當山の什寶、穀百品ありといふ云々、これを見和せざれば、記を奉仕せざれば、故にさす小畧也

塔頭繪様

○靈山徳禪寺

同祖徳翁和尚禪義亨嗣、南山大梵、應安二年五月

築山あり、山中小玲瓏、竹影、影あり、池中一舟と、遠く燈塔に、今此善徳の茶屋、安居、虎門あり、此の隅、かたは此、同、あり、みか田、影あり、應仁の火、後、宗、再興、今三門、春日神祠、鎮あり

客殿襖

龍虎画

将也探幽筆

○如意菴密傳正印禪師言外、宗忠和尚、應安中新創也

如意菴額

後奈良帝宸筆

客殿中之間

墨画山水

将也古法眼筆

檀那間

墨画西湖圖

同筆



掛物下で  
 大徳のり  
 け画まはさ  
 小かきり  
 さいふはね  
 の木はね  
 ちまひだ  
 一休和尚  
 見ゆし賛  
 介さるる  
 あやさ  
 せんさく

ぬの中、物おを  
 その一物とて人は  
 かき画工とては  
 持まはさるる賛  
 こそおはるるは

これとて人ば人  
 まつとてるる  
 三箇一の掛物  
 かねたか  
 かけおた

申和



わり人  
 画前  
 昔たふ  
 画まはさるる  
 ねら一眠  
 ささるる  
 まつとて  
 まつとて  
 ふさりなるる  
 かさるる  
 ちまひだ  
 一休和尚  
 見ゆし賛

林

○大用菴 正續大宗禪師華叟宗墨和尚及比宗慧又照禪師  
寺あり其後松原の内内より

客殿中間

古法眼筆

禮之向大書院

小栗宗丹筆

○松源院

正續大宗禪師春浦宗熙和尚創之  
松源院額春浦和尚筆

客殿中間

古法眼筆

禮之向

周文筆

舊客殿中之向

相阿弥筆

禮之向

宗律

○真珠菴

永祿十二年ノ冬以之入用松原一院客殿の  
右ノ大用也  
十一月廿一日寂ス八十八歳  
永享年中建應仁の火後宗源一休和尚と心同  
山ノ伽藍及び諸院と  
宗源等師小法くは居と當人  
塔新悉く兵火にされ灰送は宗源ありん  
於是

此の如意大用等の祖塔松原院  
酬恩菴小寂に宗源松原院  
師の塔新とて方丈の如くあり  
俗名尾和四希左衛門文龜元年十一月廿日没法号祖漢

客殿中間

曾我勉足筆

禮之向

同 筆

書院

同 筆

檀那向

長谷川等伯筆

夜鉢向

同 筆

何似之額

一休和尚筆

○養徳院

仰心大弘禪師實傳宗真和尚塔不初ハ祇園の  
地小あり後世遺止小移  
○善徳院殿勝從一位左大臣源滿  
廿八年正月十日薨五十一歳足利義隆の別義滿と母  
の類あり母ハ心勝若法院通信法師の女あり

客殿中間

小栗宗丹筆

禮之向

周文筆

墨画山水

芦屋

檀那間

琴彩書画  
墨画山水

同 筆  
小栗宗丹筆

南  
○竜源院 併慧入圓禪師東漢宗牧和尚塔所本山の南にあり東漢の児孫を稱し南流といふ  
永正年中徳州大守畠山修理太夫翁海造立此の義隆  
大正二年家臣遊佐氏が不始殺す

客殿中間

墨画列仙

等 伯 筆

禮之間

山水  
墨画猿猴

同 筆

檀那間

墨画猿猴

同 筆

北  
○大徳院 正法大聖禪師古岳宗且和尚塔所本山の北にあり  
故山小流といふ永正年中不建

客殿中間

墨画山水

同 筆  
朝經 梅屋筆

禮之間

墨画耕作

同 筆  
狩野雅樂助筆

檀那間

彩画花鳥

古法眼筆

衣鉢間

墨画祖師之圖

同 筆

大書院

外買人西王母  
大公筆

同 筆  
相阿弥作

庭中名叢

有二十頁  
林泉

同 筆

法螺石

布袋石

神鞍石

觀音石

沈香石

寶山石

伏虎石

釣舟石

卧牛石

仙帽石

拂子石

佛盟石

佛子石

獨醒石

明鏡石

不初石

壺龜石

座禪石

眞珠石

杖老石

南日暮門内  
○興臨院 併智大進禪師小漢紹慈和尚塔所 文文中  
傳高徳胤天文十一年七月十二日卒  
加州大守大細言若田統若守菅原和家口重修法号  
高德院勝一位慶長四年閏二月三日卒六十二歳

客殿中間

墨画山水

古法眼筆

禮之間

彩画花鳥  
麝香猫

同 筆

檀那間

彩画

土佐光信筆

興臨院額 爲日本園文啓和尚 十六字アリ  
 瑞峯院 爲應久滿園師 徹岫方伯行書 尚塔所興隆の南に在  
 天正二年之友方信門督義鎮造之義鎮ハ友友信門  
 天正十八年五月廿二日卒 五十八号 瑞峯院  
 位庵宗麟

客殿中間

墨画七賢四皓  
 兼父許由

古法眼筆

禮間

彩色花鳥

松榮直信筆

檀那間

彩色堅田圖

土佐光信筆

瑞峯院額

後宗高帝宸筆

北  
 聚光院 方丈のふあり 祖心奉光禪師 笑巖宗新和尚塔所  
 永福九年三月好左系大受義總父修理父長慶の  
 若小建立は長慶ハ永福七年七月に日卒 河瀬土縁の  
 四州及び泉河の二州等と領次義總ハ天正元年十一月  
 六月河州より自殺  
 信長の存より自殺

客殿中間

墨画松竹梅  
 芦馬

狩野永徳筆

禮間

墨画山水

同 筆

檀那間

琴瑟書画

同 筆

林三十五

北  
 總見院 白毫院旧稱 建之文意 廣照禪師 古溪和尚大悲  
 あり 天正年中 秀右公右大臣 信長公の弟 建之信長ハ  
 天正十年六月自殺 四十九才 辨總見院殿 從一位 大政  
 大臣 秀右公ハ 慶長二年  
 八月十八日薨 次六十三才

客殿中間

墨画山水

長谷川等伯筆

禮間

墨画山水  
 猿猴鶴

同 筆

檀那間

墨画  
 芦馬

同 筆

南  
 黄梅院 吳山德禪の弟あり 仙通 久心禪師 玉林和尚  
 塔所 天正十一年中 訥言 從三位 小早川左衛門督  
 隆景の弟 立隆系ハ 慶長二年六月十二日卒 六十四才  
 辨黄梅院殿 泰玄 紹南 隆系の子 金吾 秀秋 甥 輝之 相  
 傳 爲 承 護

客殿中間

七賢人

等 顏 筆

禮間

墨画  
 芦馬

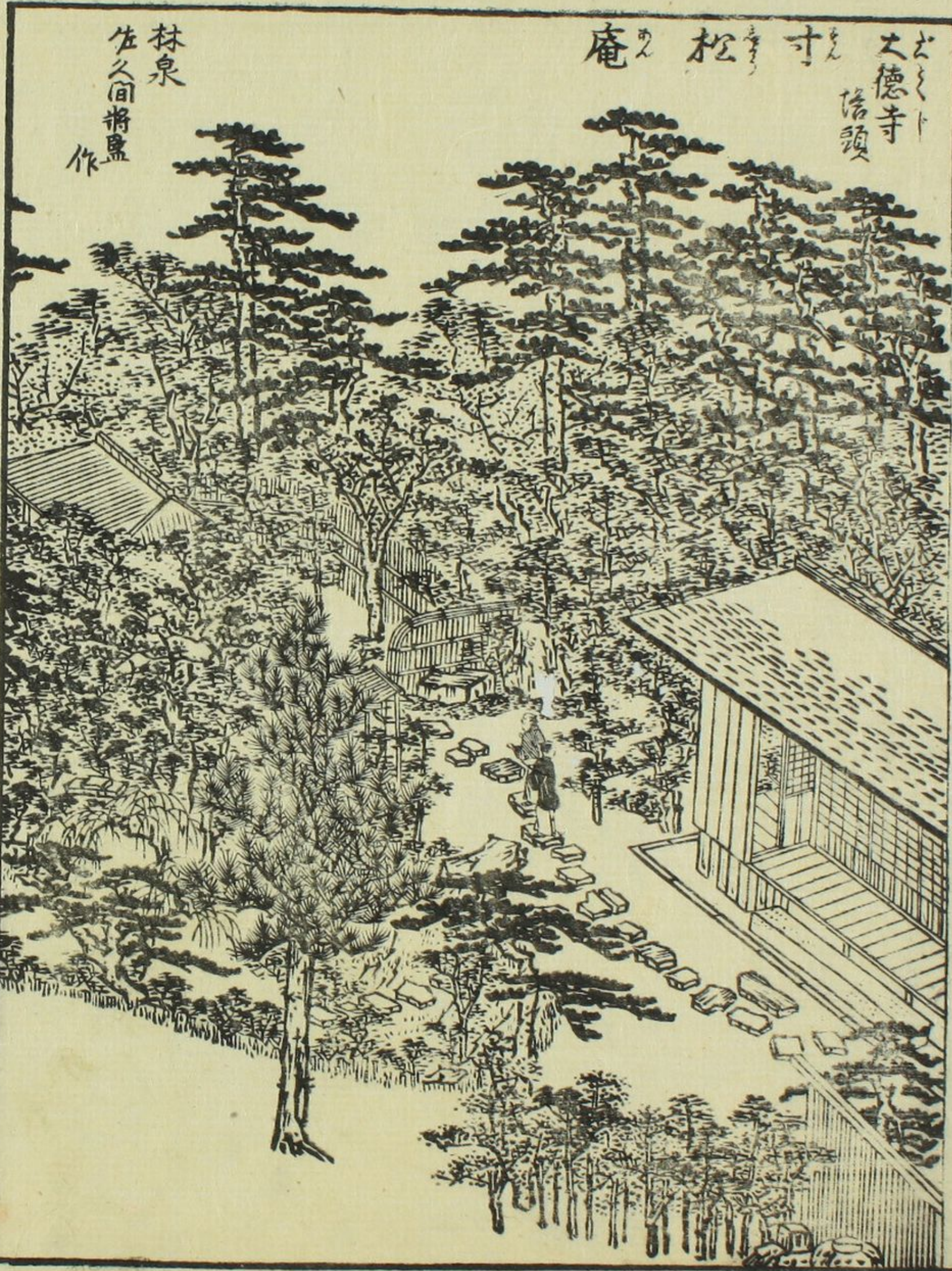
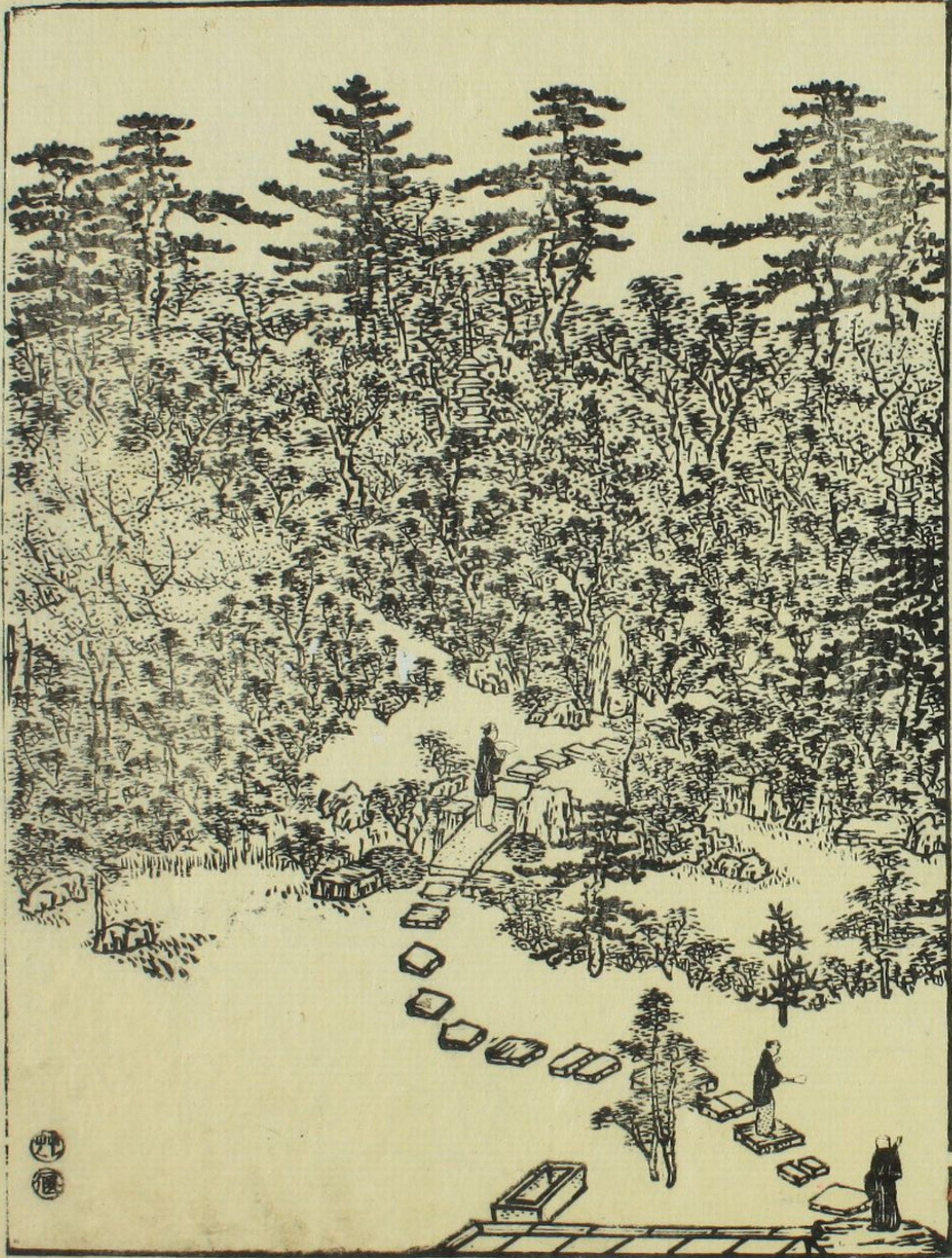
同 筆

檀那間

墨画  
 爲湖圖

同 筆





大徳寺  
 松庵  
 松庵

林泉  
 佐久間將監  
 作

其貳



南  
○三玄院 總見の南ふり 長嶽 蘭丸 長定 長屋和尚塔所  
忠政等 為 檀越

幸長ハ 彈正少輔 長政の男 号ハ 清光院 基 翁宗 宅居 城  
紀州 和 赤山 城 領 三十七万石 慶長十八年八月廿八日 卒  
長定ハ 森之右衛門 可成の男 文正十年六月二日 戦死 廿七  
徳州 岩村 城主 領 五万石  
忠政ハ 蘭丸の 弟 寛永十一年七月七日 卒 六十七  
他州 津山 城主 領 十八万石 墨画

客殿中 間 山水 等 伯 茶

禮 間 山水 同 茶

勅使 間 人物 同 茶

北 間 柳燕 同 茶

南  
○金鳳山 天瑞寺 總見の南ふり 仲 棧 大雄 禪 師 王 仲 和尚 塔所  
一位 春 濃 大 丈 夫 人 正 十 六 年 秀 若 公 為 先 妣 賜 准 三 府 從  
林 大 政 師 文 祿 元 年 七 月 廿 六 日 逝 八 十 三 歳 号 從 世 小

客殿中 間 惣 金 彩 色 将 聖 永 德 茶

禮 間 同 竹 一 彩 色 同 茶



大徳寺  
培頭  
芳春院

南  
○大徳院 瑞峰の西小あり、師國大安禪師天叔和尚塔所。  
信長公の女兄安春院。村上用防寺。義明蓮雲院。心口  
左馬女弘定梅林院。等檀紙々。

客殿 一丈  
花鳥山水 等伯茶

南  
○正受院 龍翔の南小あり、度徳正宗禪師信房和尚塔所。  
殿屋出羽吉頼降造立。園長門宮一政再造。

禮、間 日 山水 同 壽石茶  
客殿中間 墨画 列仙 待興以茶  
檀那間 日 山水 尚 景 茶

檀那間 同 彩、色 同  
衣鉢間 同 彩、色 同  
大書院 墨画 山水 同  
東、間 墨画 山水 同  
北、間 同 富士山 同  
茶 茶 茶 茶 茶

北  
○高桐院 大慈度通禪師玉甫和尚塔所  
忠貞初居丹後田邊郡中津郡小倉城二封二十八  
万石其後園原の役五軍功ありて忠貞の男城中さ  
忠利と改め此後州小封一領五十四万石  
忠利又と改め本州八代城に居忠貞正保元年十二月  
三月逝八十三歳号松向寺殿之齊宗立居士  
乃玉甫和尚の甥あり

客殿中向

墨画 樹木一式

等伯筆

禮向

柳 駿馬

同 筆

檀那向

蠶室圖

園梁楷真筆寫  
長谷川五代目等伯也

衣懸向

千鳥圖

等伯筆

大書院

山水

同 筆

北  
○玉林院 高桐の弟あり大興圓光禪師月岑和尚塔所  
慶長年中善安院法中真源派正琳造之元  
七年田原より上り月岑自ら衣盃と整へ重建り別琳の字に  
分て玉林と改む

客殿中向

墨画 山水

狩野探幽筆

禮向

同 山水

善朴筆

檀那向

七賢 四愛堂

衣懸向

琴碁書画

大書院

墨画 鶴

西向

同 山水

板戸

一向半 一枚枿

松猿猴

二枚

竹鶴 一向 一枚

襖

二枚

松麿香

不知筆者

北  
○大光院 金龍の弟あり大慈度照禪師古漢和尚塔所  
文禄年中造立正二位大納言秀長口和州郡山  
城及紀州泉別に於て七十万石を領す  
元和年中藤堂和泉守高虎為山に移す  
秀長ハ秀吉公の弟天正十二年二月廿日薨大光院後  
春岳宗榮と号し其長男中納言秀俊口古漢和尚と稱す  
高虎ハ寛永七年十月五日卒年七十五号寒松院後

客殿中向

墨画 七賢四能

永真筆

禮向

墨画 夏景

同 筆

檀那向

墨画 秋景

同 筆

夜舁間

墨画

同

等

大書院

墨画

同

等

○南 金龍院

天瑞の西ありの御性心宗禪師傳雙和尚塔物。慶長年中金森五郎八長進道立信長公の眞跡の藤初長松和尚伝。住持の長近の去部口法下と号し花山城主居り。

客殿中間

山水

同

等

禮ノ間

四愛堂

同

等

檀那間

大松

同

等

夜舁間

山水

同

等

金龍院額

同

等

校戸

四枚二枚物彩色

等伯等

○南 昌林院

大雄殿の西あり同霜指軒法竜大深禪師元南和尚の塔新文様年中蒲生飛孫吉氏郷同七男飛孫吉秀の遺立し父の功徳場と氏郷八文福元年二月七日卒四十七歳奥州金津城主百万石

客殿中間

七賢

安信

等

禮ノ間

山水

同

等

檀那間

山水

同

等

○北 龍光院

玉林の南あり大梁興宗禪師江月和尚塔物。黒田龍光長政の父勲解由源ノ孝高の存に造立長政の號龍光院。萬曆十一年八月四日卒五十二歳号興玄院。考高ハ天正十一年秀右公に奉一豊州中津城六万石。慶長九年三月廿日卒五十一歳号龍光院如水圓清。聯芳堂院内あり中位蓮慈左圓鑑國師右。好仕親王号高松殿一糸江月。後陽成院。廣家の遺命を以て立墓於此院。居防州若園。領六万石。寛永二年九月廿一日卒六十四歳号全光院殿中岩如兼。

客殿中間

松 仙人

同

等

禮ノ間

松 仙人

同

等

檀那間

真山水

同

等

夜舁間

金山寺圖

同

等

大書院

單山ノ圖

同

等

杉戸

一向半貳枚  
唐獅子四疋

同

等

北  
○芳基院

直拈心源

禪師 玉室和尚塔所 慶長年中  
加州金澤城 主中納言若田肥前守利長の母

芳基院 加州金澤城 主中納言若田肥前守利長の母  
女之元和三平七月十六日逝 葬芳基院 墓石室土方掃部助  
凌陽成院 貴七皇子一條園白 長公 慧觀 若田院 檀越

香湖閣

棟井氏田屋  
等造

又有飽雲亭 亦月橋

客殿中間

唐彩色  
祖師圖

探

幽

等

禮ノ間

墨画  
獅子牡丹

同

等

檀那間

唐彩色  
四愛堂圖

同

等

衣懸間

墨画  
山水

同

等

大書院

唐彩色  
花鳥

同

等

小書院

墨画  
山水

同

等

右二十四塔頭由致八龍寶記を按察次

○寮舎

龍泉庵

松原院寮舎 陽家和尚塔所  
明應年中 多賀豊後守高忠子孫為檀越

客殿中間

西湖圖

興

意

筆

禮ノ間

人物

同

等

衣懸間

耕佃圖

同

等

檀那間

梅花

同

等

大書院

柳本牛画

同

等

抄戸

一向竹藪 彩色一向  
二枚

野稚 已上  
六枚共 同等

北

○清泉寺

三玄院寮舎 用基實 傳和尚中興 傳外和尚 同伏見  
今其諸部と一の大僧の西あり

今其諸部と一の大僧の西あり

客殿中間

唐彩色  
山水

等

伯

等

禮ノ間

四愛堂

同

等

檀那間

琴基書画

同

等

衣躰間

山水

同

筆

大書院

山水

同

筆

○瑞源院

芳妻院の寮舎文光の孫あり江月と廂組と江月と廂組と江月と廂組と江月と廂組と江月と廂組と

客殿中間

墨繪人物

等

益筆

禮ノ間

山水

同

筆

檀那間

耕化

同

筆

○寸松菴

龍光院子孫江月と廂組と江月と廂組と江月と廂組と江月と廂組と

客殿中間

曲水

探

幽筆

禮ノ間

名中山水

同

筆

檀那間

花鳥

同

筆

衣躰間

西湖八景

同

筆

書院

袋棚 桑 菘菜 蒲葎

同

筆

同

額 風水洞

林道

春筆

額

空步廊

同

筆

廊額

空步廊

同

筆

○梅岩菴

瑞峯院寮舎天祐和尚塔所

客殿中間

松竹梅

將

世典也筆

禮ノ間

花鳥

別

不如閑筆

檀那間

八景

同

筆

大書院

人物

同

筆

衣躰間

人物

同

筆

○高林菴

芳妻の寮舎芳妻の裡あり王舟和尚塔所慶長中建立其後寛永中戸桐不見古貞昌再建貞昌八州小泉邑領一萬石

客殿中間

山水

探

幽筆

檀那間

人物

同

筆

禮ノ間

山水

安

信筆

衣躰間

山水

益

信筆



久書院

山水

常信 茶

玄妙額

後西院帝宸書

○見性庵

瑞雲寮舎之三玄内五あり万江和尚塔所  
慶長中立

客殿中、間

七賢

禮ノ間

林和誌

等益 茶

檀那間

真山水

同 茶

衣鉢間

山水

同 茶

○常樂庵

玉林の子居古溪和尚所造後慶長  
細川弼中寺係細川氏大老和尚と  
將世永納茶

客殿

松竹梅一式

同 茶

○孤蓬菴

龍光院子菴江月和尚右角組小堀遠江守政一  
造立政一正保四年二月六日  
六十九茶

客殿

山水

周信 茶

禮ノ間

松竹梅

同 茶

檀那間

同

同 茶

大徳塔頭

碧玉菴

紫式部碑

中ノふらた

又へら

茗溪

碧玉松



書院 山水

探幽筆

書院成直入新とて寛永  
年中小堀善太文是也  
小堀道川の父なり

佛間額 孤蓬菴 松花堂程翁筆

○碧玉菴 天正年中 藍溪和尚創 立花菴 寺 宗茂 隱 菴 居 菴  
苑 後 柳 川 領 十 二 万 石 林 泉 藤 村 備 軒 能  
什 寶 小 細 川 全 旨 幽 齋 所 持 の 文 臺 碑 宮 あり 當 寬 政 十 年 午  
の 秋 九 月 紫 式 部 の 碑 碣 と あり 建 物 古 蹟 へ 表 林 院 の 石 石 の 方  
或 町 許 田 隴 の 中 あり 都 名 所 圖 會 拾 遺 出 せ 碑 へ 故 障 あり 爲 爲  
又 建 物 銘 へ 細 維 龍 由 毀 へ 井 後 氏 久 米 女 財 主 へ 恨 花 五 十 川  
菅 正 齊 田 中 督 榮 あり 九 月 中 旬 碑 と 建 物 の 日 供 養 の 法 蓮 あり  
觀 音 觀 法 奏 樂 一 越 調 音 取 賀 殿 迎 陵 頻 急 胡 飲 酒 羅 陵 王  
武 德 樂 伶 官 七 人 岡 東 儀 林 三 家 勤 之

### 紫式部碑

扁額隸書

紫姬者越前守藤為時女也生而穎悟才德夙著姬只惟規嘗讀書姬在傍暗誦不失一字父撫其背曰恨不令汝為男也為時雅通經史迺以其學悉授姬迨年稍長給事御堂

林三三

公家尋侍上東門院既而適左金吾宣孝生二女亡幾宣孝歿矣姬持操甚堅獨與其女居覃思讀書通五經三史涉佛老百家詞藻富贍逸思如湧永延之朝有十才女紫姬為之冠內命著編新語姬乃著源語六十帖進呈焉外託艷詞內存諷諭意匠結構摘藻婉麗前無古人實女史之大手筆也時之哲匠不能贊一辭也姬有容色貴介公子以歌通殷勤姬拒之亦以和歌其詞婉曲而貞烈不可奪也其它事實詳干源語諸註及日記等卒葬城北雲林院冢今在院東南數百步但墳瑜存已今茲寬政乙卯有尼師傷其冢日就荒廢募緣四方同志建之碑令維龍銘焉

銘曰

倚與斯人

窈窕淑貞

聞德斯美

若瑤若瓊

雲髮霧鬢

歛采榛荆

彤管之煒

日星燿明

爰建爰勒

永存令名

寬政七年歲次梅蒙卑閏小春日

鶴山畑維龍子蝮甫識

美式部入の御前... 藤原... 維龍... 蝮甫... 識

美式部入の御前... 藤原... 維龍... 蝮甫... 識

ふい通法を...  
 かくおのゝ...  
 ねむきの...  
 井後氏  
 之女子

○富山之寮金子菴名画筆蹟多し一筆もよめりてありき

龍翔寺

旧西京安井村あり應仁の大後廢派今大徳寺僧法堂正受の如し  
 寂り七十四歳益通通之應因解定...  
 又西京龍翔豊後の國福城南の如勝等所と奉じく同祖と云

客殿

墨繪

小栗宗丹筆

南向

花鳥

同一

筆

引接寺

千本通北極小あり辨く千本庵庵堂とて寺木も櫻あり  
 花の附大念佛と修に釋源信佛都子定覺とて

本法寺

十六本寺の其一あり林泉の光悦の作ありて紫之巴の座せ  
 賞を其形染山泉石共小浪の紋と換を什寶とて幅射の名画あり

中央觀音月壺の尊たる許由張若汝の尊右巢父同尊と鶏頭艸  
 の繪の舞擧の尊貝畫の繪の朝昌の尊とて六當寺の尊とて光明

林二六

皇后淨孝の法華經又小野道風の法華經あり本阿弥光悦の流筋あり  
 羅漢の像の種々あり明兆若舟古法眼等の尊之宗門とて日蓮日親等  
 の尊も教軸あり又名望あり其銘と松風といふ中華より傳來といふ其外  
 教品あり思之摩利支天の画像あり尊若詳るは足利尊氏の副統あり

其文云

太現明王者合我本尊也若石公授子房公尊也匡房卿授源  
 義家之い尊又名摩利支天當家傳之項羽高祖合我  
 時項羽軍強高祖度々討落此時張良い尊高祖  
 傳奉款強雖此尊ノ帥行若持款自退散何況  
 本尊威光依テ吾儕無不仰眉矣

正慶二年十一月

護帥檢役口傳申也

足利大和守殿



釈迦寺

巴の庭  
釈迦寺の庭



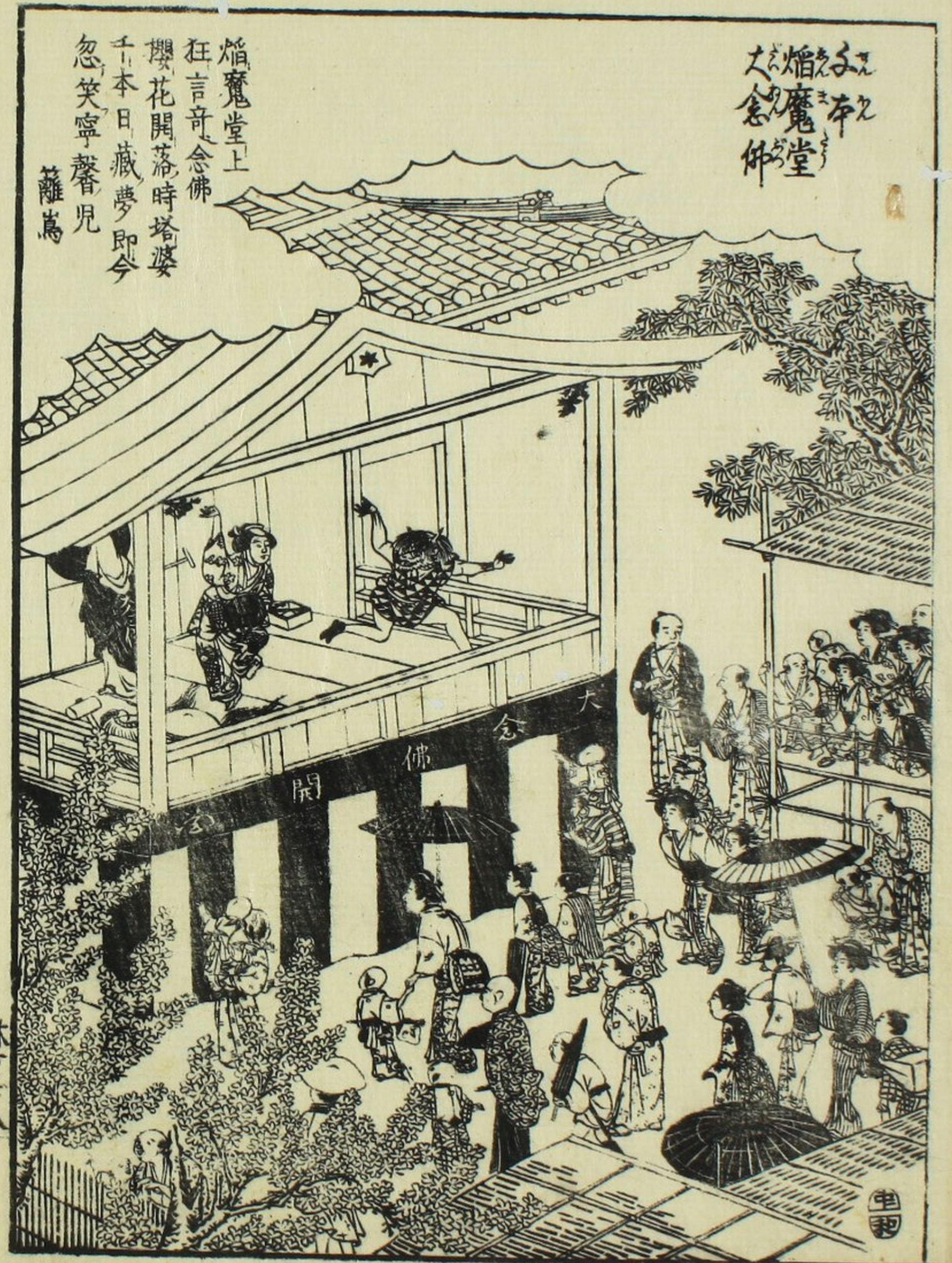
林三十七

石の庭  
雨龍  
信の紋



大念佛  
焰魔堂

焰魔堂上  
狂言奇念佛  
櫻花開落時塔婆  
千本日藏夢即今  
忽笑寧馨兒  
離萬



林三十八

印

